

令和8年度 第1回浜松市立和田東小学校運営協議会

9日入学式



13日～学校応援し隊 給食支援



1年生も元気に登下校



浜松市立和田東小学校

令和8年度 和田東小学校学校運営協議会委員名簿

※敬称略

委員名	住所
わたせ さぶろう 渡瀬 三郎	安間町
こいで ゆきお 小出 幸雄	天龍川町
すずき さちこ 鈴木 佐知子	安間町
なかむら まゆみ 中村 まゆみ	長鶴町
いとう つきみ 伊藤 月見	龍光町
くぼた そう 久保田 創	材木町
いとう あきこ 伊藤 亜紀子	材木町

【座席表】

小出幸雄 様

渡瀬三郎 様

鈴木佐知子様

中村まゆみ様

伊藤月見様

校長

教頭

教務

飛永

久保田創様 伊藤亜紀子様 堀内信広様 (オブザーバー)

令和8年度 第1回和田東小学校運営協議会次第

日時：令和8年4月22日（水）13：30～15：00

会場：和田東小学校 2階 会議室

司会：教頭

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 自己紹介

4 学校運営協議会規則確認

5 議長の選出

・ 前回の会議録・R8年度自己評価の確認

6 熟議

(1) 学校運営の基本方針について（校長説明）

(2) いじめ防止基本方針について

(3) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

(4) 本年度の目標

7 連絡

・ 年間開催日

第2回 6月 5日（金）

第3回 11月 6日（金）

第4回 2月17日（水）※参観会開催予定

8 閉会の挨拶

Ⅱ 令和8年度 和田東小学校 教育構想

1 国・市の現状と動向

多様化が進む現代、VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代とも呼ばれる先行きが不透明で将来の予測が困難な社会において、子供たちを取り巻く環境にも多くの新たな課題が生じてきている。

このような状況の中、国からは第4期教育振興基本計画、市からは第4次浜松市教育総合計画が策定された。子供たち一人一人が、持続可能な社会の担い手として、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていく資質・能力を育む教育の実現が求められている。その力を育む環境を整え、子供たちが自己の所属感と存在感を高め、安全で安心できる和田東小学校を目指していくことが、私たちの責務である。

(1)国：第4期教育振興基本計画（基本方針）〈計画期間 2023-27〉

コンセプト

「持続可能な社会の作り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」

基本方針

- ・グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ・誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ・地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ・教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
- ・計画の実効性確保のための基盤整備・対話

ポイント ※主なもの

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、キャリア教育・職業教育の充実
- ・外国語教育の充実、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進
- ・ICT利活用、校務DX、働き方改革、コミュニティ・スクールの推進 等

(2)市：第4次浜松市教育総合計画 〈令和7年度～16年度〉

教育理念

「描く夢や未来の実現」 【主体性 ・ 多様性・包括性 ・ 信頼・協働】

目指す子供の姿

- ・自分らしさ：自分らしさを大切にする子供
- ・他者との協働：他者と協働し、主体的に行動できる子供
- ・自己調整：自己調整しながら、粘り強く取り組む子供

目指す教職員の姿

- ・愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- ・専門性と指導力を磨き続ける教職員

方針と政策

- ① 自分や浜松の未来を創る人づくり
 - ・未来の創り手に求められる力の育成
 - ・多様なニーズに対応した学び舎支援の充実
- ② 安心・安全で魅力ある授業づくり
 - ・「はままつの先生」の魅力と資質能力の向上
 - ・安全・安心に学べるより良い教育環境の整備
- ③ 子供の学びや育ちを支える連携・協働
 - ・多様な人材・主体との連携・協働子供の学びや育ちを支える連携・協働
- ④ 教育データの利活用
 - ・客観的根拠に基づいた教育施策の推進

2 学校評価の結果

徳 にこにこ思いやる

だれにでも明るいあいさつをしている 目標値 90%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	86.6
	3～6年生	87.0
	保護者	81.7
	教職員	82.4

周りの人にあたかな態度で接し、助け合おうとしている。 目標値 90%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	93.7
	3～6年生	86.9
	保護者	92.2
	教職員	100.0

自分のよさが分かり、集団をよりよくしようとしている。 目標値 85%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	86.4
	3～6年生	76.2
	保護者	81.9
	教職員	88.2

体 ぴんぴんきたえる

自分の目標に向かって粘り強く運動している。 目標値 85%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	90.5
	3～6年生	80.7
	保護者	72.6
	教職員	76.5

病気の予防に努め、健康に気を付けながら生活している。 目標値 85%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	91.7
	3～6年生	82.7
	保護者	83.2
	教職員	88.2

危険を予知し、安全な生活に心掛けている。 目標値 85%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	88.7
	3～6年生	87.9
	保護者	84.0
	教職員	29.4

知 こつこつ学ぶ

基本的な学習習慣を身に付けている。 目標値 80%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	87.2
	3～6年生	85.5
	保護者	79.7
	教職員	62.5

既習を生かして粘り強く課題解決に取り組んでいる。 目標値 80%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	82.5
	3～6年生	81.3
	保護者	70.0
	教職員	68.8

学び方を学んだり、交流を通して考えを深めたりしている。 目標値 80%	よく・大体できている割合	
	1・2年生	91.9
	3～6年生	91.9
	保護者	72.0
	教職員	75.0

3 学校評価結果を受けた学校運営協議会での話し合いより

※学校運営協議会委員・PTA・協働センター代表・全教員 参加

○学習面

- ・新聞を購読していない、字を書く機会が少ない等、常識が変わってきている。どのように学習していくのかを学ぶことが必要。
- ・家族の中で大人の会話を聞いていると社会で何が起きているのかを学ぶ。また、学ぶ意味を大人が話すのもよい。
- ・国語については、家庭での会話や体験、読み聞かせや音読の影響も大きい。地域の環境としては、金原明善や高柳健次郎といった偉人がいるので歴史も考えやすい。
- ・読書が大切ということが分かっているにもかかわらず苦手意識がある子もいるので、漫画や薄い本などから活字に触れる機会を増やすとよい。
- ・文章を読み取るのが難しい。読まずに解答するケースがある。読書量を多くすることが大切。
- ・宿題の量については、子供に合った学習ができるとよい。
- ・教師が付けてほしい力まで到達していないが、子供の評価は低くない。ゴールの姿を明確に示すことが大切ではないか。

○生活面

- ・安全意識、危機感がない。自転車の乗り方は気を付けたい。学校で安全教室をしているがポイントをしぼって指導していくとよい。
- ・学校の廊下をよく走っていて、低学年ほど多く、特に雨の日に多い。自転車の乗り方は家族と一緒に走るのはいかがでしょうか。
- ・危ない経験が少ないために余計に危機意識が少ないのではないかと。守りすぎず経験をさせたり、メディアを活用したりして危機意識を高めたい。
- ・挨拶ができないことがあるので、挨拶をする意味・タイミングを子供たちに話す必要があるのではないかと。
- ・和田東の子は学年をこえても仲もよく、高学年は低学年に優しいので、生かしていけるとよい。

4 本校が目指す教育

天竜中学校区 目指す児童生徒像

- ・自分らしさを大切にし、互いを尊重しあうこども
- ・他者と協働しながら人々の幸せや地域のために貢献するこども
- ・描く夢や未来の実現に向けて自己調整しながら、粘り強く取り組むこども

校訓 「ともに 伸びる」 (教育理念)

学校教育目標 「夢をもち とともに伸びる子」(目指す子供像)

「夢」… 今後実現したい自分らしい願いや希望、目標、志
「ともに」… 互いに思いやり、進んでかかわること(友達・家族・教職員・地域の方々)
「伸びる」… 粘り強く、こつこつと一生懸命に努力する(障がい・国籍を超えて)

重点目標

合い言葉：にこにこ・ぴんぴん・こつこつ

(徳育) にこにこ 思いやる

(体育)ぴんぴん きたえる

(知育)こつこつ 学ぶ

学校経営目標 「笑顔あふれる元気な学校」(目指す学校像)

○自分らしさ・主体性 ○他者との協働 ○自己調整

経営の重点

児童

(1) 「自分らしさ・主体性」を育む教育活動

- ・自己肯定感や自己有用感を醸成し、ありのままの自分を受け入れるようにする。
- ・物事を自分事としてとらえ、「やってみたい」という気持ちを大切にする。
- ・「学び方を学ぶ」意識をもたせ、既習を生かして課題解決していこうとする。
- ・自ら考えタブレットを効果的に学習で活用する。

(2) 「他者との協働」による認め合い

- ・友達と自分の違いを認識し、互いに尊重しながら学んでいこうとする。
- ・友達と学び合うことの楽しさや自己の学びを実感できる。
- ・友達との関わりの中で自分ができること、すべきことを考えて行動する。

(3) 「自己調整」による自己実現

- ・教育活動全般を通して「自他の命の大切さ」を実感し、危機回避能力を身に付ける。
- ・児童自身が目標を立て、自分の行動を振り返り、評価しながら次の行動を決定する。
- ・うまくいかない事があっても一旦立ち止まって修正しあきらめずに粘り強く行動する。

教職員

(1) 「自分らしさ・主体性」

- ・教職員が自己のキャリア段階に応じた資質・能力の育成を可能にする校内外を通じた研修体制を整える。

(2) 「他者との協働」

- ・教職員が自分の専門性を発揮しながら、多様な支援スタッフと連携・分担し質の高い「チーム和田東」を実現する。
- ・報告・連絡・相談を確実にやり、風通しの良い職場環境をつくる。
- ・学年主任を核に和を保つ経営をする。困ったときは声を出し、横と縦の協力体制で対応する。

(3) 「自己調整」

- ・教職員が業務にやりがいを持ち、自ら自己調整しながら力を発揮し、自分にしかできない事に注力する。
- ・一人一人が教育公務員としての自覚を持ち、自制心を持って、不祥事根絶に努める。
 - ①信用失墜行為の禁止(体罰、わいせつ、交通事犯、不適切な事務・会計処理・情報管理)
 - ②政治行為の制限 ③営利行為の制限 ④争議行為の禁止
 - ⑤法令や上司の命令に従う義務 ⑥守秘義務 ⑦職務に専念する義務

学 校

(1) いじめの未然防止・早期発見・早期対応

- ・発達支援教育の観点から、人権教育、共生・共育の充実を図り、確かな子供理解、教育的ニーズの把握、適切な支援をしていく。通常級と発達支援学級との交流を通して相互理解を図り、よりよい人間関係や社会性を育む。
- ・生徒指導の観点から、いじめを起こさせない学級風土づくりをし、いじめが起きた場合はいじめ対策委員会で方針を決め、教職員間で連携し組織で対応する。
- ・いじめアンケートやシャボテンの調査を生かし、早期発見・対応に努める。
- ・家庭訪問、個別面談、SC・SSWの活用等、教育相談の充実を図る。

(2) コミュニティ・スクールの有効活用 「市民協働による人づくり」

- ・家庭、地域、中学校区の学校・幼稚園、放課後児童会との連携を図り、学校運営協議会、健全育成会、こども110番の家、各種医療機関、夢をはぐくむ学校づくり推進事業等の協力を得る。
- ・PTA、自治会等、地域の団体へ各種たより、メール、ホームページ等で適切な情報提供を行う。また、参観会・懇談会、体育的行事、わくわく発表会等で学校公開を行う。
- ・学校支援活動の充実を図る。（挨拶、交通安全、防犯、環境整備、学習、読み聞かせ、課外活動等）

(4) 働き方改革につなげる業務の見直し

- ・定時退勤日設定や、ワークライフバランスを意識した休暇取得を進める。
- ・各自の仕事を効率的に行う知恵や技術を職場内で共有することを意識して取り組む。
- ・ICTの効果的な活用を促進する。